# 編集室から

月日の経つのは本当に早いもので、今年も遺す処あと僅かになりました。

今月の表紙写真は、昨年知人と旅をした米国西部に広がる複数の国立公園郡・グランドサークルの中の街・セドナでのキャンプ場のワンシーンです。写真にあるような8人が寝起きできるバスのような大型のキャンピングカーをレンタルし、グランドキャニオン・モニュメントバレー・アンテロープキャニオン・ザイオンなどを大急ぎで回りました。

事前に車の情報を仕入れて予習し、当日も海外駐在経験のあるリーダーと共に英語で説明を受け、いざ出発。ところが、いきなりハプニングの連続でした。このタイプの車は、トイレ・シャワーが内蔵されているのですが、水がでません。何度トライしてもダメ。レンタカー会社は勿論、果ては日本のコーディネータにも問い合わせるも、原因が判らず、とうとう最後までトイレとシャワーは使えませんでした。

この他にも、わずか10分遅れただけで予約をキャンセルされたり、8人の自由人の時間調整が不能で行程は猛烈に押し続け、最後のホテルでは車の格が合わないという理由で、駐車を拒否され慌ててキャンプ場を探す、米国を出国する日に道に迷って違う空港ターミナルに着く、困って下車して尋ねて回るうちに駐車違反のステッカーを貼られるなど、これでもか!というアクシデント・ハプニングの嵐でした。

渦中にある時、人間が問われます。次々と起こるこれらのできごとに、いつしかチームとして対応できるようになっていました。全員困り果てたとき、ポツリとしたメンバーの一言が解決への鍵になったことも。

撮影した膨大な写真と動画を組合せ、編集した一本の動画は、宝物になりました。苦労は、 やがて大切な眩しい想い出になります。(は)





本ニュースにレギュラー執筆 していただいている川畠さん が「能登の夜市」の姉妹店を 開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

Chintara もちろん、川畠さんご自身も お店に立っておられます。

日本酒バルChintara 03-6427-8183 17:00~24:00 金曜17:00~28:00日曜祝休 渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。 その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

> 2015/12 (株)アスリック http://www.neting.or.jp/usric

〒920-1167 石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217 Fax 076-233-7375 Email usric@neting.or.jp



2015/12 (株)アスリック http://www.neting.or.jp/usric







米国セドナにて by hama

# 濱のつぶやき 『信頼の先』

は皮淀すると。 き始め、それが膨張し続けて限界を超えると、その愛き始め、それが膨張し続けて限界を超えると、その愛と、愛情も疑わしくなり、些細な違和感から疑惑を抱愛とは、信頼の上にのみ成り立つ。 信頼が揺らぐこんな話を聞いたことがある。

さが求められていたのかもしれない。いが故に、なおさら互いの相手に対する真摯さ誠実いったのだろう。恋愛感情が先に立ったご縁ではなた婦となる瞬間から互いの信頼関係を築き上げて夫婦となる瞬間から互いの信頼関係を築き上げて疾婦となる瞬間から互いの信頼関係を築き上げて表婦となる瞬間から互いの信頼関係を築き上げて決婦となる瞬間がもしれない。

頼関係を築くという順番に移り変わった。以前から育んだ恋愛感情を起点として、無意識に信は由恋愛が結婚の前提となった現代。夫婦となる

国はつからしればり。 「病構築の意図が薄い婚姻が、今日の離婚率上昇の真なされるかのような恋愛感情だけが先行し、信頼関なされるかのような恋愛感情だけが先行し、信頼関係の密度が深く影響しているということは古信頼関係の密度が深く影響しているということは古一方、持続的な愛情の源泉は、恋愛感情ではなく、一方、持続的な愛情の源泉は、恋愛感情ではなく、

ている。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でいる。

でれによると、女性の一人暮らし・シングルがある。

それによると、女性の一人暮らし・シングル

いう上位 (悪い方で)の常連なのである。は、全世帯の貧困率でもOECDの中で二~四位とい現実がそこにあった。つさらにはなんと、我が国たと思い込んでいた眼には、驚き以外の何者でもなこの国は、世界有数の経済力を持った大国になっ

撃を受けている。 中でも、女性単独・シングルマザー世帯が、その直

止には、別な根幹的対策が求められるが、不幸な単独低所得化と、女性単独・シングルマザー世帯の貧困防現在、この国の全世帯が見舞われている平均的に

れない。関係を重視する意識の向上が求められているのかも知関係を重視する意識の向上が求められているのかも知世帯を生まないためには、恋愛感情の基盤として信頼

いる。 能登地域での取り組みの御手伝いをさせていただいて 国の過疎地域では移住・定住対策に乗り出しており、奥 自治体消滅という衝撃的なメッセージを受けて、全

に、新規就農を希望する都会人が増えている。能なので可処分所得が増えることなどの理由を背景であること・現金収入は低くとも自らの食材は確保可経て奥能登に移り住んでいる。数年前から、確実な職業移住者は、それぞれの動機を持ち、さまざまな経緯を

はつながらない例が現場を悩ませている。加えて、一度移住しても数年で離れてしまい、定住にることは、かなり難しく、勢い施策はちぐはぐになる。から一歩も出たことが無い。これでは移住者の身になところが、受入れ側の市町村職員はほとんどが、故郷

No.s. 頼関係を構築している地域に持続的な定住例が増えてきな地元のキーパーソンとキチンとご縁をつなぎ、信きな地元のキーパーソンとキチンとご縁をつなぎ、信一方で、移住·定住への手厚い補助金よりも、世話好

という言葉を聞いた。かつて、「愛とは、相手の存在を支えようとする意志」

思う。 る意図は表面的な恋愛感情に過ぎないといえるようにノ・カネ・デキゴトで気持ちを動かし興味を惹こうとすを構築しようとする意志が「本物の深い愛」であり、モーであるならば、夫婦愛・家族愛・地域愛を支える信頼

る姿勢の方が、有効なのではないだろうか。ろうとするより、地道な信頼関係を築き上げようとすに移住者・定住者を増やすには、補助金などの制度で釣据える意識が、地域愛を育むものならば、本気で持続的熱に浮かされた縁結びではなく、信頼関係を基礎に

るとは露ほども思わなかった。 した人間である。その経験が今日、活かされる機会が来山暮らしへの憧れから、 三十数年前にエターンを果た保障のための自給農家と、 都市しか知らないが故の里かくいう自分自身、出逢いのご縁によって、生活安全

やって牛歩のごとく成長していくのだろう。合い、それを積み重ねていくしかない。ひとは、そうれていく。目の前に起こることに一つずつ丁寧に向きか、その瞬間には判らない。それは後々、自ずから知ら今、味わっているこの体験が、どんな意味があるの

いきたいと思う。れず、年始の気分に浮かれ過ぎず、さらなる時を重ねてっ年も早、師走を迎えた。年末の気ぜわしさに惑わさ

# 『 2015年の反省と成果 』 株式会社GARBAGE代表 川畠 嘉浩

今これを書いている瞬間は2015年12月5日です。そう師走であり、2015年もあとわずか。やっと様々な書類に平成27年と記入することに慣れ始めたばかりなのに。。。。。。

ということでこの一年の反省と成果を備忘録がわりにここに記したいと思います。

## <反省>

# 1.新店舗の出店ができず

11月オープンで炉端の新しい業態展開でこの一年進めてきましたが、結果それが成し遂げられず。

世田谷区の桜新町の物件契約まではいったのですが、契約後に物件のオーナーから 営業時間の規制についての話があり、結果ものわかれに終わりました。

仲介した企業はもっときちんと事前確認すべきなんですが、この事象から考える私の反省「相変わらずの詰めの甘さ」です。

これは昔から変わらない私の悪い癖です。

### 2.人材の成長に労を惜しめず

新店準備であったり、既存店舗の主要スタッフの退職などで現場に貼りついたというのもあったのですが結果「全て自分がやってしまう」というこちらもマネジメントをする人間としては、

会社の成長=人の成長という点で大きな反省でした。

以前ここでも書かせていただいた、"プレイングマネージャー"の話もそうですが、私はどうしても"スーパープレイヤー"になりたい願望があるようです。

# 3.ついつい子供を甘やかしてしまう

6月に二人目の子を授かったのですが、それによってより一層上の娘をかわいがってしまっています。

拗ねてしまわないようにというのもあるのですが、男親というのは、元来娘が 本当に好きなようです。

先日も一緒に、幼児の女の子たちが好きなアニメ番組の映画を見に行き、そこで父親のいいところを見せようと、キャラクターの洋服がデザインされているカードを大人買いする始末。

他の子供の親御さんもあきれていました。

自宅に戻って時の妻の「本当はあんたがこのアニメすきなんでしょ」と変態扱いされる始末です。

「いいところを見せたい、かっこつけたい」というこれもまた、昔からの悪い癖です。

### <成果>

### 1.家族が増えました

何よりもこの2015年で一番のうれしい出来事が、息子が6月に生まれた事です。

名は「川畠源太郎」。尊敬するうちの祖父から一文字をいただきました。 これからどのような男に育っていくのか、楽しみでもあり、私自身がまた成長 させてもらえるという期待でワクワクしております。

ただ、最近の感情表現の様子を見ていると「おねえ?」という疑惑も。 それもまた、親としての成長フィールドということでしょうか(笑)。

### 2.料理人としての道をスタート

ひとつの店を任せていた料理長の退職によって、おのずと私が調理をすることになりました。

玄人はだしを自認しておりましたが、そこはやはり和食のプロの世界。

見よう見まねでは難しく、約半年ほどではありますが、毎日包丁を握りつづけ、天麩羅を揚げ続け、魚を捌きつづけ、何とか形になってまいりました。

まだまだ、職人レベルには遠いかもしれませんが、今も週4日は継続しております。

何かあった時に、何もできませんでは会社は成り立ちませんから。

# 3.冷静にこれからの会社の飲食事業というのを考えることができました

11月に予定していた新店企画が破談となり、一度頭を冷やせたのかもしれません。

限られた経営資源 (人・金) や制限の中で、何を今選択すべきかという選択肢が増えた事が成果なのかもしれません。

私のやりたいというWILLがもちろん一番大切なのですが、やはりこれから何が求められ、そこに事業化できるためのリソースは何があるか?

という冷静な思考が若干欠如していたのかもしれません。

これから飲食業界は原点回帰すべきだと考えています。

1970年代の海外チェーンの進出や、チェーンオペレーション・マネジメントを軸とした規模の経済性を追求した事業モデルから「食という機能を通した地域資源の再構築」に向かうべきだと。

その詳細はまたここでお話できればと思いますが、私は飲食店は地域を形成する大きな経営資源のひとつと考えています。

反省は明日の成長であり、失敗から学ぶことは非常に多いと感じた一年です。 でも、うちのような零細企業では失敗はしたくないなあ~。また2016年もどう ぞよろしくお願いいたします。

# 『富士の国から ~大魔神のたび~ 』小山町ふるさと納税物語 静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

小生の隣の席の小野部長が言う「毎朝、ふるさと納税がいくら来ているのを見るのが楽しみだ」。今年度に入って町長から「ふるさと納税をやってくれ」と指示された。昨年議会で町長が総務課が書いた原稿をもとに「住民税は住民サービスを受ける住民票がある自治体に収められるものであって、今見られえる何のゆかりも縁もなくただ返礼品目的に他の自治体にふるさと納税の名のもとに寄付し、その分地元収めるべき税金が逃げていくことは望ましいことではなく、、しばし様子見」のようなことを答弁した。らしくもないなと思いつつも27年度を迎えた。今年度からふるさと納税で特典のある額が2倍に引き上げられ、給与所得者ならば5自治体までの寄付であれば、確定申告をしなくても税のメリットを得ることになった。こうなったら自治体間での食うか食われるか大競争の号砲が鳴らされたようなものだ。

昨年は小山町内NO1のふるさと納税をし、他所の自治体に貢いでしまった小生にとっては、後ろめたさもあって頑張るしかない。呑気な役場職員の中にはふるさと納税をやっている職員はほとんど皆無、やったことない者にはその様子面白さが分からない。そうそう他にも健康福祉会館に太陽光パネル乗せることも毎年売電価格が下がっているときに、もたつく職員を前に昨年末に駆け込みでねじ込ませた。パネル設置価格も民自ら経験しているからわかる。「まちづくりは金づくりから」をここ小山町では実践している。

さて、ふるさと納税に話を戻そう。職員からは「うちの町の返礼品と言えばコシヒカリと水掛け菜ぐらいしかないですよ。他は牛肉とか魚、果物がいっぱいあってお金が集まっているんじゃないですか!そんなもの何もないですよ。商工会に頼んでお菓子の詰みあわせ程度ならあるかも」と異口同音に言われた。

「だから、おめーらは呑気なんだよ。君らの眼は節穴か?小山町には 11もゴルフコースがあるじゃないか、富士霊園という人気の高い墓もあるし、富士スピードウエイもある。全国的に名の知れた企業もたくさん進出してきている。シモンズベッドもアイリス大山、リンガーハット、31 アイスクリーム、こんなに魅力的なものがあっても、無いって言うんか! 営業に行くぞ!ふるさと納税という通販サイトで地元産のものを売りまくってやるぐらいな勢いで、これが地域振興って言うだ。めざせ100アイテム!1億円」

9月1日スタートを切るために準備に入った。営業の前に静岡県で最もふるさと納税NO1の焼津市、NO2の西伊豆町に視察に行くことにした。焼津市には小生が静岡県NPO推進室に席を置いて協働を推進している時に親しくなった石原さんがたまたまふるさと納税を担当していたので、そのノウハウをたんまり教えてくれた上、エクセルで作った整理表も提供していただいた。西伊豆町からは、扱う件数が多くなるとエクセルで処理はできなくなるので、導入した処理システムのことを学んだ。ここでも職員が近く海士町に視察に行くと言うので町長との夜の懇親会を段取りしたこともあって懇切丁寧な説明を受けた。

「農家から米を集めることが難しい、送料は別途世話してあげないと駄

目だ、町民を対象にすることは望ましくない、、」心配事を並び立てて足を引っ張っていただいたが、当事者と話してみると全くの杞憂だった。

8月中旬から立上げの時には勝又、岩田の両君が必死に頑張ってくれた。

「集まるんですか?」「少なくても1億円は大丈夫だ、自分だけで一千万は集める自信はある」だと豪語した手前、第1号は小生が自ら寄附した。その後まもなくして東京の方から入った。一か月が経ち2800万円が集まった。10月に入り新たな返礼品が投入され火を噴いた。宣言した1年間の目標額はあっさり達成した。次の企画も用意できている。焼津市の背中が見えてく、毎日1200万円ほどの寄付があると言う。背中が見えるどころではなく、はるかかなた先にいる。ああ

ふるさと納税をという名の寄付金をもとに、小生に与えられた課題である重要文化財「豊門会館の修繕と活用」、「森村橋の再生」、富士山を一望する「誓いの丘の整備」、金太郎ゆかりの「金時公園の再整備」に手を付けたい。もう、金はないからを理由に思考停止・先延ばしは許されない。お楽しみはまだまだこれからだ。

